

## 十和田湖の成り立ち

### 1. 約 20 万年前

十和田火山が活発化し噴火して、溶岩を噴出し火山灰をまき散らし、円すい火山を形成しました。溶岩と灰の地層が交互に重なったこのような地形を成層火山と呼びます。

### 2. 約 3 万年前

大規模な噴火が起こり、火山は無数の軽石を噴出しました。それと同時にこの地域を取り巻く 2 つの断層が滑り、その結果火山の中心部が崩落を始めました。

3. 以後 3 度の噴火が起き、その度に軽石を大気中に噴出しました。火山は崩落を続け、ついには正方形の窪地が形成されました。十和田湖の原型です。

### 4. 約 1 万年前

湖の南部に中央が陥没した成層火山が新たに作られました。

### 5. 約 4 千年前

中央の火口が噴火し、火山灰と軽石を大気中に噴出しました。

6. 噴火がお椀型の陥没を生み、新たに中湖と呼ばれる湖が誕生しました。

7. 水位が上がって湖岸の侵食が続き、湖の周縁の壁が決壊して、奥入瀬溪谷が誕生しました。今日見られる湖の姿はこうにして生まれたのです。

## 8. 約 2 千年前

寄生火山の働きにより、御倉半島の先に小規模なドームが形作られました。今日では御倉山溶岩ドームと呼ばれています。